更なる充実に向けて、能開大は今“建設ラッシュ”

職業能力開発大学校　事務局長　　今泉　和之

技術革新の進展、高齢化社会の到来等に加え、昨年来の景気停滞は予想以上に長期化し、雇用情勢も悪化するなど経済社会の変化には著しいものがある。

このような情勢のもとで、本校では、多様化する職業能力開発ニーズや指導員養成ニーズに的確にかつ柔軟に対応できる体制をとるため、現行の工学科別の体系を系・学科・専門コース制に再編し、カリキュラム等についても見直しをすることとして現在その作業が進められているところである。

一方、この系体制への移行が円滑に進められ、技術革新などに対応した指導員訓練等の実験・実習の場として適合していくよう実習棟建て替え予算を要求し、２カ年間計画で予算が認められた。早速、校内に検討委員会が設置され、検討が進められてきたところであるが、６階建ての実習棟を建設することゝなり、すでにその基本設計が出来上がり、いよいよ工事が進められることになった。

この他、研修寮の増築（全個室で２月初旬竣工予定）や２人部屋をすべて個室とする改修、学生寮の建て替え（全個室で11月末竣工予定）、障害者のための設備の整備（スロープ、自動ドア、駐車場）を行ったところである。

また、本校が神奈川国体の練習場に指定されることもあり、陸上競技場の整備をはじめ、野球場、テニスコートの整備、この他にも本校が小平市から移転して20年が経過しており、老朽化した構内すべてのガス管、給排水管、消火栓の取り替え、電気関係設備の改修、冷暖房用ボイラーの整備（自動発停装置等）、排水枡の改修をはじめ、構内すべての囲障の取り替えや職員宿舎の外壁など多くの工事が昨年来行われたところである。

このように通常の年間予算の何倍にも相当する工事を昨年度と今年度の２カ年で実施することになり、能開大はまさに建設ラッシュとなっている。

他方、本校が国際協力を始めてから30年になり、去る１月21日には30周年記念パーティーが、労働省、事業団本部、ＪＩＣＡ、地元相模原市をはじめ本校の先輩の方々などのご出席のもとに盛大に行われたところである。本校国際協力部における指導員コース等の受け入れも関係者の方々のご努力、ご支援により現在まで71カ国、約1,400人となっている。

このほか国際協力関係では、今年より５カ年計画で中国の職業訓練指導員養成センターとのプロジェクト方式による技術協力が決まり、その具体的な準備が進められているところである。

このように本校も系への再編、施設の建て替えや設備の整備、新たな分野への国際協力など、昨年の校名改正に象徴されるように時代のニーズに沿った発展に努めているが、これまでの先輩の方々の立派な業績に心から敬意を表するとともに、これを引き続き守り、更なる充実を図っていかなければならないと思っています。今後とも一層のご支援とご指導をお願いします。

新役員の改選

先の総会で理事会役員が改選され、下記のメンバーが新役員に選出されました。初の実業界からの会長を頂くことになり、滄水会の新たな出発点ともいえるでしょう。新しい風を送るべく会長以下張り切っております。平成８年秋までの３年間、よろしくお願いいたします。

会　長　尾身嘉一（建築１）　大栄工業（株）、社長
副会長　福谷　格（運輸４）　能開大、教授
　　松沢良治（板金７）　オータパブリケイションズ（週刊ホテルレストラン編集長）
　　荒　隆裕（電気13）　能開大、助教授
理　事　木村陽一（電気９）　雇用促進事業団、専門役
　　谷口雄治（建築12）　能開大、講師
　　米谷宏明（運輸14）　東京能開短大、講師
　　福島政次（金属14）　国際研修協力機構、調査役
　　藤井信之（溶接18）　能開大、講師
　　依田光正（機械20）　能開大、助手
会計監事　平塚剛一（機械10）　東京能開短大、講師
　　森　茂樹（塑性18）　能開大、講師

会長就任にあたって

大栄工業（株）社長

会長　尾身嘉一

滄水会もスターとしてから26年、校名も変わり、新しい21世紀に向けた同窓会にふさわしい会に生まれ変わろうとしています。花田前会長の後を引き継ぎ、学校から遠く離れていた私が会長に就任するということは、はなはだ僭越とは思われますが、頑張ってやりとげたいと思っております。会の運営については、今まで長い間、能開大関係者にはたいへんご苦労をおかけしました。あの四千名からの名簿だけ見ても、よくこれだけの情報量を集め、なおそれを整理してこられたのは、並々ならぬ努力の賜物と感謝しております。本当に有り難うございました。

さて、私見になりますが、外部から能開大を見ていますと、どういう目的の大学なのか、どんな組織になっているのか、全然見えてきません。知っている人でも指導員養成校ぐらいで、部外者には全然大学校を理解できず、名称すら知らない人が多いように見受けられます。

昭和40年代（日本の高度成長期）から雨後の竹の子のように、色々の大学が設立されました。名前を売るべく、有名な教授、学長を一流大学からスカウトしたり、高校時代活躍した名の通ったスポーツ選手を受け入れたりする学校が非常に多くあります。昨今の正月駅伝でも、山梨学院大学などはその典型です。これが良い方法だと思いませんが、創立三十数年を経て、これほど名前の売れない、ＰＲの少ない大学もめずらしいと思います。

大学入学年齢の若者の数も２年前をピークに、すごい勢いで減少しております。無名校はもちろん、有名校でさえも今後の入学者の減少に危機感を抱き、種々の対策を講じているようです。過日、関西の立命館大学がヤクルト球団の古田選手（同校卒業者）を起用し、新聞に大々的な広告を出しました。同志社大学もこれに追随。関東でも帝京大学が大きな新聞広告を出し、ＰＲに努めています。

一方で本校は私大と違い、そうした動きは微塵も見られません。学生は集まらなくても運営は可能でしょうが、しかしながら危機のつのる時代、これまでのように消極的姿勢では良い学生を集めることは、なおさら困難のことと思います。ますます産業界は高度の技術を要求してきます。それに十二分に応えられる社会人を育てることが、当校の本来の目的ではないでしょうか。優秀な学生を広く集める意味からも、ともかくまず学校の名前を売るべきだと思います。金のかかる広告、ＰＲもさることながら、各種パブリシティの投稿、学生主催のイベント等を盛大にやり、多くの人達、若い人への学校を宣伝してもらいたいと思います。このことを同窓会の皆様にご理解頂き、それぞれの立場でのご協力を切に願うものであります。

滄水会総会の報告

副会長　松沢良治

昨年の10月30日、東京・霞ヶ関の東海大学・交友会館で開催された「滄水会総会」の報告を致します。

あいにくの雨の中、会は予定時刻の午後１時をちょっと回って始まりました。出席者は約100名。総会は次の順序で進みま

した。

①事業報告

②収支決算報告および監査報告

③平成５年～８年事業計画

④会則変更

⑤予算

⑥役員改選

以上の議題が前理事の手で提示され、テキパキと処理され、スムーズに可決されていきます。収支決算報告にいたっても二、三の質問があっただけで、満場一致で承認を受けました。

全体を通し、一番の関心を集めたのは、会費の徴収についてでした。このままでは会の運営がじり貧になることは目に見えているからです。

そこで、会費徴収方法の変更、会員名簿の有料化などの提案がされ、熱い議論を経て原案どおり可決されました。入学時に会費を前納してもらおう、という案もその一つです。しかしながら、もっと大事なのはＯＢの未納者をどうするかということです。敢えてこの場を借りてお願い致します。滄水会の発展に会費は是非とも必要なものです。未納の方にはご協力お願いの手紙を差し上げますが、その際は何よりも優先してご支援の程お願い申しあげます。

常に言われることですが、会は単なる昔話をしにくるところではなく、現世の私益を得る場所として存在すべきだということです。お互いの幸福のため、利用できる場所に育て上げようではありませんか。

さて、報告を続けます。中休みをはさみまして、午後２時半からは上智大学教授・猪口邦子氏の講演が行われました。テレビ、新聞、雑誌に取り上げられない日はない、という超売れっ子教授だけに話はわかりやすく具体的で、あっという間の１時間でした。前回の米長邦雄名人とは、また変わった魅力で、しばらく余韻が残ったほどです。

講演会終了後は、隣に会場を移し、33階スカイバンケットでのパーティーとなりました。卒業生の中には女性の姿も見え、あちこちで輪に花が咲いていました。

早川宗八郎校長にもご挨拶頂きましたが、その中に、「これからは、もっともっと大学校の名前を世間に知ってもらえるように努力していきたい」とありました。新・同窓会長の尾身嘉一氏の抱負も、まさしくこの一点につきます。滄水会をより豊かな会にするには、大学校の名前を、じいちゃん、ばあちゃんにまで知ってもらうことが肝要でしょう。そのための努力は、我々の喜びでもあるはずです。会員のご協力をよろしくお願い致します。

長崎県滄水会活動状況の報告

長崎県立佐世保高等職業訓練校　久保　賢

訓大ＯＢ会（滄水会）長崎県の活動状況について報告の依頼が電話であったのは、今年の年明け早々である。

滄水会の各県の報告状況を見ると、先輩・後輩が一同に集い親交を温めていることを知っていたため、ある意味ではうらやましく思っていたことである。

したがって、本県の滄水会活動の報告は、本来ならばその様な内容を報告すべきものであることは承知しながらも、この機会に是非他県の訓大ＯＢ者に本県在住のＯＢ者を紹介しておきたかった。

本県在住の多くの訓大ＯＢ者が生き生きと活躍していることを誇りに思っていたため、その依頼を引き受けたのである。

私事であるが、私は民間を経験した後、ある機会を得て昭和51年に長崎県に奉職することとなった。県立では陣内（７期、電気）先輩が在職していたが勤務地は違っていた。また、６カ月後、さらに１年後には訓大ＯＢ者が新規採用で続々と入ってきた。

当時、ことあるごとに「訓大ＯＢは、理論はあるが実技はダメだ。」の言葉をよく耳にした。若干20代の我々訓大ＯＢ指導員が、先輩指導員の“技”に太刀打ちできるものではないことは、あたり前のことであり、誰が見てもそうであり、我々自身もそう思っていた。

このことについては、苦労の種であった。“技”をマスターすることが訓大ＯＢの課題でもあったろう。そして、その訓大ＯＢは少しずつ技をマスターし、今では立派な指導員として活躍されていることは、周知の事実である。

それ故、この様な環境の中で、同窓として、心の支えとして互いを尊重しながらも表立った同窓会をやる気持ちにはなれなかった。

したがって、滄水会活動も実質的には皆無であった。また、ある時期、本課（庁）にて勤務をする機会があったが、ポリテクセンターの訓大ＯＢ所長・課長・職員には並々ならぬご指導とご協力をいただいた。

名刺を出すたびに、名前は言わなくとも、『訓大（　）期です』という言葉を小さく付け加えただけで、大きな指導と援助

を賜った。かけがえのない財産であると思っている。

これからは、同窓として、互いの交流ができそうな感じがしているし、先輩・後輩ではなく訓大ＯＢ者としての集いの機会を設けて、滄水会活動の第一歩を踏み出したいと思う。

次回の報告では、他県にない滄水会活動を報告できるよう期待していただきたい。

今回は、本県の職業訓練を担っている訓大ＯＢを一挙ご紹介しておく。

◎ポリテクセンター長崎

井上栄（３期・機械）、新内一美（３期・板金溶接）、安永正明（５期・板金溶接）、松尾孝俊（10期・電気）、増崎文洋（11期・機械）、石本直幸（25期・電気）、田上晴久（28期・機械）、山口安洋（29期・情報）、林正剛（29期・造形）

◎ポリテクセンター佐世保

石川彰弘（２期・機械）、福本一直（７期・建築）、松本卓也（18期・塗装）、熊一修（24期・電気）

◎長崎雇用促進センター

竹下博之（５期・電気）、小串博康（13期・塗装）

◎長崎高等職業訓練校

陣内要（７期・電気）、後藤文夫（13期・木材加工）、神田悦郎（20期・機械）、大西正家（20期・建築）、橋田隆（21期・塗装）、橋口俊英（27期・塗装）

◎佐世保高等職業訓練校

久保賢（８期・溶接）、岡山真二（14期・運輸）、松尾俊郎（20期・塗装）、石田敏博（24期・溶接）、中原弘喜（24期・電気）、松本和博（26期・塗装）

◎五島高等職業訓練校

高松稔（13期・建築）、福見浩（23期・建築）

◎島原高等職業訓練校

野村英樹（15期・電気）

これだけのメンバーがいれば、九州男児（特に長崎）の熱い心意気で、来崎したら帰れない（帰りたくない）ような歓待ができると思う。「長崎はよかとこやけん。いっぺん出て来んね。同期がおらんでも、顔ば知らんでも、訓大（　）期というだけで遠慮せんでおいだちにまかせんね。」

会員数の現況（都道府県別）

～支部活動の参考として～　　※ 勤務先所在地により算出

東京都	７１９	広島県	７５	鹿児島県	５０	岐阜県	３８	高知県	２８	福井県	１９
神奈川県	４７９	京都府	６４	岡山県	５０	福島県	３７	和歌山県	２６	滋賀県	１９
大阪府	１８７	富山県	６３	茨城県	４９	佐賀県	３５	奈良県	２４	宮崎県	１９
愛知県	１７５	兵庫県	６２	栃木県	４８	香川県	３２	島根県	２１	愛媛県	１９
埼玉県	１４１	長野県	５８	群馬県	４７	青森県	３１	山形県	２１	鳥取県	１８
静岡県	１３０	熊本県	５８	宮城県	４２	大分県	２９	秋田県	２０	徳島県	１５
千葉県	１２４	北海道	５４	長崎県	３９	新潟県	２８	三重県	２０	沖縄県	１３
福岡県	１０５	石川県	５２	山口県	３８	山梨県	２８	岩手県	２０	（不明）	２２９

滄水会名簿についてお詫び

同窓会活動において会員名簿を充実させることの重要性は言うまでもありません。能開大在職の会員あるいは地方支部のご協力をいただいて、1993年版については1,000名余におよぶ住所変更等の訂正を行いました。しかし、編集作業上のミスから、その内のかなりの部分について旧いデータのまま印刷される結果になりました。

会員各位に対し誠に申し訳なく、衷心よりお詫びいたします。早速、原因究明に努め、次回発行の際にはより信頼性のある名簿を発行できるよう改善策を講じますので、どうかご容赦下さいますようお願い申しあげます。

『1993滄水会名簿』編集責任者
前・副会長　久下　靖征